

市民活動 鹿屋灯籠流し

市民団体による 平和を語り継ぐ活動

6月21日、小塚公園で「戦後80年鹿屋灯籠流し」が開催されました。当日は県内外から約300人が参加して、旧海軍航空隊鹿屋基地から特攻隊員として飛び立ち、帰らぬ人となった908人を偲びました。



— Interview —



特攻隊員が 鹿屋にいたことを 忘れてはいけない

特攻隊員を偲ぶ市民の会
薩摩菓子所 富久屋
北村 馨 さん

Data 5歳の頃に終戦を迎える。自宅の菓子店に訪れる出撃する数日前の特攻隊員や自宅から見送る両親の姿は覚えていると語る。富久屋では、特攻隊員が機上で食べた人生最後のお菓子「海軍タルト」を再現。機内で操縦しながら片手で食べられるように細長くカットし、紙で包んでいる。多くの人が戦争について考えてもらうきっかけになればと店頭で販売している。

**特攻隊員を偲び
平和を見つめ直す**

私は、20数年前から毎年、特攻隊員のことを思い灯籠流しをしてきました。大雨等でイベント自体は中止になり、主人と2人だけで行った年もありましたが、毎年、鹿屋で特攻隊員を偲んでいます。きっかけはある人から言われた「ここから特攻隊員が飛びたつていったのに何もしないのか」という言葉でした。それから、主人と2人で「鹿屋市民として何ができるか」を考えて、最初は本当に身近な人だけで始めました。この思いに賛同してくれる人は回を重ねるほどに増えてきて、色々な方に協力をもらいながら、現在まで続けることができています。

今年は、908個の灯籠を準備しました。市内企業に提供していただいたコップに、和紙を巻いて灯籠を作ります。908個というのは、鹿屋基地から飛び立った特攻隊戦没者の数で、和紙には特攻隊として出撃した方の氏名や階級等を市内の小中高中生に書いてもらいました。快く引き受けてもらえたことに感謝するとともに、若い世代にもこの取り組みに興味を



▲灯籠を献灯し、特攻隊員に思いを馳せる様子

持ってもらえて良かったと思っています。

今年は戦後80年。今後も特攻隊員を偲ぶこの活動を継続していきます。また、灯籠についても鹿屋だけでなく申良基地の特攻隊戦没者分363個を加えていきたいと思っています。

その他に、市内に石碑を少しずつでも設置することで、祖国のために散つていった特攻隊員を偲ぶことができる場所を、提供できたらと考えています。

少しでも多くの方が鹿屋には多くの特攻隊員がいた事実を忘れることなく、どこかで少しでも鹿屋から散華した特攻隊員のことを考えていただければありがたいと思います。

特集 戦後80年、次世代へ語り継ぎたい平和への想い

～永遠の平和を願って～



1945年8月15日の太平洋戦争終結から今年で80年目を迎えます。戦争の悲惨さや平和の尊さについて、もう一度考えてみませんか。

市政策推進課 TEL 0994-31-1125

戦後80年 次の世代へ語り継ぐ

太平洋戦争末期、ここ鹿屋市には、鹿屋、申良、笠野原の3つの飛行場があり、日本で最も多くの特別攻撃隊員の方々が、大切な家族の幸せと祖国の平和を願い、南の空へと飛び立った場所でもあります。また、終戦後の混乱の中、約2,500人の進駐軍が高須町の金浜海岸に上陸するなど、私たちのまちは戦争の歴史と深く関わってきました。

今年は、戦後80年という大きな節目を迎えます。戦争を直接知らない世代が多くなった今だからこそ、当時何が起き、人々が何を感じ、何を思ったのかを正しく知り、その記憶を次の世代へ語り継いでいくことがますます大切になっていきます。私たちは、改めて過去の歴史と真摯に向き合い、犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに、戦争を体験された方々やご遺族の思いに耳を傾け、市民一人ひとりが「平和とは何か」を問い直し、その尊さを心に刻みかけとなることを願っています。

今回の特集では、平和の尊さを後世に語り継ぐ活動をしている市民団体の紹介と、本市の戦後80年事業をご紹介します。